

なぜインフルエンザワクチンの入荷ができないのか？

インフルエンザウイルスには A 型と B 型があり、2014 年までのワクチンには A 型 2 種類と B 型 1 種類が入った 3 価ワクチンでした。ところが B 型には 2 種類あり、年によってはワクチンに入っていない B 型が流行することがありました。このため、2015 年からは B 型も 2 種類入った 4 価ワクチンになり、より効果的なワクチンとなっています。

しかし、インフルエンザワクチンは各インフルエンザウイルスの型を発育鶏卵に接種して製造するため、4 価になった分より多くの有精卵が必要となりました。各ワクチンメーカーはこの有精卵の確保に努めていますが、必然的にワクチンの生産量には限界が生じています。

本年度のワクチン生産量はほぼ昨年の需要に匹敵し、必要量を満たしているとの判断ですが、昨年はワクチン製造株の問題から例年より少ない生産量となっています。そのため、例年より少ないワクチン供給量となっており、また今年は早期にインフルエンザの発生が起きているため、需要が多く一時的に供給不足となっていると考えられます。

見込みでは 12 月には国家検定をパスしたワクチンの供給がありますので、ワクチン不足も解消に向かうと思われます。

インフルエンザワクチンの製造量及び使用量の推移

